『底辺×高さ÷5』

作 西澤尚紘

〈登場人物〉

①ヤシ

②コージ

③ゴン

④アツ子

⑤主任

（ルイーズ）

一場ー①

ヤシ「そんでさきのう、彼女んチ行ったんだよ。」

コージ「はあ。」

ヤシ「そしたら彼女の両親いてな。」

コージ「はあ。」

ヤシ「彼女のオフクロさん、オレに聞いてくるんだよ。」

ゴン「なんじゃこりゃ〜！いてえよ、いてえ！」

ヤシ「ちょー！マジ、ゴン小さい声でやってくれよ。」

ゴン「チス。チ、チチス。」

ヤシ「そこんとこヨロシクで。」

ヤシ「で、なんだっけ？あ、そうだ。彼女のオフクロさん、オレに聞いてくるわけよ。『お仕事は何さんしてんのって』って。」

コージ「はあ。」

ヤシ「だから言ったわけ。オレはプロの役者目指してる無職だって。」

コージ「はあ。」

ヤシ「オイ！コージ！」

コージ「はい？」

一場 ②

ヤシ「話きいてんのかよ？ずっとうわの空じゃん。」

コージ「はあ。」

ヤシ「たくもー。食事中、なんかのひょうしで、あ、スイマセンお父さん」っていったら、キキ、キミにお父さん呼ばわりされる覚えはない！って怒られるまでをスリリングに言おうと思ったのにさー。」

コージ「先非ちょっといいですか？」

ヤシ「へ？」

コージ「実はオレ。」

ヤシ「うん。」

コージ「実はですね……実は。」

ヤシ「なんだよ、早く言っえよ。」

コージ「オレ、サラリーマンになろうと思うんです。」

ヤシ「えー!?マジ!?」

ゴン「でけーよ声が！」

コージ「マジっす。」

ヤシ「なんでまた、そんなこと。」

コージ「だってさ、しょうがないじゃないっすか。」

一場 1 ③

ヤシ「しょうがなくなんかない！」

ゴン「だから声がでかいって。」

ヤシ「なんでショウショクなんかすんだよ！
なんでコージがサラリーマンになる必要があるんだよ。」

コージ「もう決めたんすよ。」

ヤシ「ハアー!?」

ゴン「まあ、まあ。コージには、コージの人生があるだろ？な？
でもさコージ、オレも気になる。理由を教えてくれないか？」

コージ「結論からいうと、もうビンボー生活はイヤだ。以上終わり ってことですが。」

ヤシ「結論だけじゃ足りない！もっとワケもいってくれよ。」

コージ「オレ、AKBのライブに行きたい。」

ゴン「AKBのライブ？」

ヤシ「んなもんネット動画で観ればいいだろ。」

コージ「ナマで観たいんすよ！
二次元の向こう側に行きたいんすよ。」

ヤシ「じゃあ、オマエは高いチケットを買うために会社につとめるっていうのか？」

一場ー④

コージ「そうっす。」

ヤシ「そんなの不純だよ！」

ゴン「べつに不純では。」

コージ「もう不純でもなんでもいいんですよ。
ちゃんとした大人になりたいんすよ！」

ヤシ「じゃあ、じゃあさ、オマエ毎日10時間も12時間も働けるのかよ？」

コージ「ええまあ。」

ヤシ「そんなの地獄だろうがよー！」

コージ「オレは先輩とは違うんですよ！」

ヤシ「なんだとコノヤローー！」

（ヤシとコージ、ケンカになる）

ゴン「バカ、やめろって！」

二場ー①

ヤシ「たくなんなんだよ。コージあいつ。何様のつもりなんだよ。先非車のオレに手を上げるなんて一億年早いんだよ。あ〜顔いてー。」

ゴン「なにぶつぶついってんだよ。早くふけって。」

ヤシ「顔がイタいのー！」

ゴン「いいトシしてケンカなんかするからだよ、まったく。」

ヤシ「マジ、野蛮人だよ。アイツはー。」

ゴン「ハハハ(笑)どっちもどっちだよ。」

ヤシ「なーゴン？」

ゴン「ん？」

ヤシ「あのさー。」

ゴン「なんだよ？」

ヤシ「ゴンはショックとかしようと思わないの？」

ゴン「なんだよ、急に(苦笑)。」

ヤシ「オレ、昨日、コージにブチ切れたけど、ぶっちゃけあいつの言ってたことたぶん間違ってない。間違ってないから頭にきたんだなオレ。だからゴンもさー！！。」

ゴン「やめない。オレは役者であることをやめない。コージはコージ、オレはオレだからよ。」

二場ー②

ヤシ「そっか……。」

ゴン「オレ、絶対松田優作みたくなるし。」

ヤシ「うん。」

ゴン「なんなんだよお前。動揺してんのかよ？」

ヤシ「はずかしながら動揺してます。」

ゴン「かっこ悪い（笑）。」

ヤシ「彼女のパパには説教され、コージにもなんかこっぴどく反撃され、劇団卒業され。」

ゴン「バカ、そんなの関係ないだろ。お前がどうしたいかだろ？」

ヤシ「自分次第ってやつ？」

ゴン「それが一番大事ー（ブツブツ）なワケよ。」

ヤシ「オレ、しばいやりたい。松田優作みたいにならなくていいから役者やりたい。観客と共感したい。」

ゴン「じゃあ、いろいろ考えずやろうぜ。オレらさ。」

ヤシ「だな!! ウッス、なんか心が元気になってきた！」

ゴン「ほんじゃけいこしようぜ？」

ヤシ「おお！ 今日、どこからだっけ？」

二場ー③

ゴン「第三場でオレと君がヒロインのルイーズをめぐって決闘するとこからだよ。」

ヤシ「あ、そこね、ってなんでルイーズなんて名前なの？フランス人なの(笑)？」

ゴン「知らんは。脚本書いたのコージだぜ。」

ヤシ「ったくほんとコージはよる。」

ゴン「はい、スタート。」

三場ー①

ヤシ「こんど演劇公演やります。チラシでーす。」

ゴン「『貴族対ホームレス』でーす。はいチラシでーす。」

ヤシ「メロンホールで今週、土曜日の夜やりまーす。」

ゴン「夜八時からでーす。ラブロマンスでーす。」

ヤシ「来てくださーい。チラシでーす。」

ゴン「『貴族対ホームレス』でーす。来てくださーい。」

コージ「あ。」

ヤシ「あ。」

ゴン「コージ。」

コージ「せ、先輩。」

ゴン「ウッス、コージひさしぶり。」

コージ「は、はい、ど、どうもです。」

ヤシ「なんだよオマエそのカッコは？」

コージ「ヤシ先輩……。」

ヤシ「なんなんだよ、そのカッコはよー!?」

コージ「た、ただのスーツですケド。」

三場ー②

ヤシ「そんなっふざけたスーツがあるか！」

ゴン「おちつけヤシ、道端だぞ。」

ヤシ「オメー、AKBのチケット買うために、サラリーマンになったんじゃないのかよ。」

コージ「はう…オレ…。」

ヤシ「答えろよコージ！」

ゴン「だからおちつけって。」

コージ「ほ、ほっといてくださいよー！もう関係ないでしょ！」

ゴン「コージ！」

コージ「何着ようが、何しようがオレの勝手でしょ！」

ヤシ「なんだとコノヤロー！」

コージ「迎撃しますよ、オレはー！」

ヤシ「フッ、まあいいは、まあいい。」

コージ「ヤシ先輩？」

ヤシ「オレはお前と暴力沙汰おこしてるヒマはない。ただ一つだけハッキリさせておこう。この時、この場所で。」

ゴン「あれ？でる？でるの？」

三場ー③

ヤシ「ボクが貴族なら君は奴隷、もしくはホームレスなんだよ〜！」

ゴン「でたー。劇中のセリフ〜。」

コージ「それ、オレが書いたセリフじゃないですが〜！」

ヤシ「だーはっはっはっはっは(笑)。」

コージ「ちょ、先輩。」

ゴン「なあ、コージ？」

コージ「え？」

ゴン「今週の公演、観にきてくれるだろ？」

コージ「え、行ってもいいんですか？」

ヤシ「あたりまえだろ。何言ってんだよ。」

コージ「でも、オレもうシバイは…。」

ヤシ「観に来てくれよコージ！たのむよ！」

コージ「せ、先輩…。」

ヤシ「オレ、いい味だすから！」

コージ「わかりました。行きます。」

ゴン「よっしゃ、そうでなくちゃな。あ、オマエ時間大丈夫なのかよ。」

三場ー④

コージ「え？あ？あ!?やべチコクするー。ってかしてるー！
行きます。じゃまた！」

ヤシ「アイツいったい何の仕事してんだろ？」

ゴン「フツーじゃないわな、あのカッコ。」

ヤシ「ヘンなことしてなけりゃいいけど。」

ゴン「でもまあ、オレらもヘンなんで全然。」

ヤシ「相対的？」

ゴン「うん、相対的。」

ヤシ「じゃあ、次の宣伝スポット行きまガー。」

ゴン「オー。」

四場ー①

コージ「お客様のキャッシングはご利用限度額いっぱいになりましたのでこれ以上はもう…。」

アツヨ「え!? お金もう借りられないの?」

コージ「もうしワケありあませんが…。」

アツヨ「お願い! どうしても10万円必要なの!」

コージ「もうしワケありませんが当方といたしましても。」

アツヨ「じゃあ5万円でいいから!」

コージ「いや、そういう問題じゃなくてですね。」

アツヨ「1万円、1万円どうしても!」

コージ「だから…。」

アツヨ「フザケンじゃないわよー! これじゃあパチンコ行けないじゃないのー! このアクマー! お金借しなさいよー!」

コージ「だまれ!! パチンコジャキーガ! オメーみたいなビッチに借す カネはもう無いんだよ! 一円も無い!」

アツヨ「ひ、ひどい! そんな言い方って…。」

コージ「ゴチャゴチャいってとケーサツ呼ぶぞ!」
このパチンコ狂いの激安女がゝ!」

アツヨ「よくも、よくも私にそんなこと…。よくも…。」

四場ー②

コージ「えぇ!? まだナニカァ!?」

アツヲ「殺してやる! アンタなんか殺してやるから〜!」

コージ「やれるもんならやってみろヤー!」

アツヲ「キィ〜。」

コージ「ふ〜つかれた。」

主任「おつかれちゃ〜ん、コージ。」

コージ「あ、どうもです主任。」

主任「だいぶうまくなったじゃね〜かクレーム処理。立派な金借しになってきたぜこのヤロー。」

コージ「いや〜オレなんてまだまだ。でもさっきのお客。かなりこわいこと言ってました。オレ…。」

主任「大丈夫だって! あんなのめずらしくないって。口だけだから。」

コージ「そーっすかね?」

主任「そうだって!」

コージ「そっすよね。オレ、悪くねーし。」

主任「まあ、今日はこのへんで業務終了だ。」

コージ「チス。」

四場ー③

主任「そんじゃお先におつかれちゃらん。」
コージ「おつかれさまです〜。いやら帰ったらビール飲も。」
アツ子「チェスト〜！」
コージ「へ？」
アツ子「殺してやる、殺してやる、殺してやる！」
コージ「ちょっとアンタいったい何を!?ちょ！イタ！」
アツ子「焼いてやる、焼いてやる、焼いてやる！」
コージ「やめて！やめてよ！」
アツ子「うごくな！」
コージ「ひっ!?」
アツ子「100万円借して！そして私にあやまって！、ヒドイことといってゴメンなさいってあやまって！」
コージ「ゴメンなさい！ヒドイことといってゴメンなさい！」
アツ子「ふふふ(笑)、いい子ね…。でも一緒に死んでね、このさいだからさー！」
コージ「いや〜！」
アツ子「チェスト〜！」
コージ「助けてママ〜！」

五場ー①

ゴン「なぜアナタは私からルイーズ様までうばおうとするのか？」

ヤシ「たしかにボクは、小さい時から君の数百倍かわいがられ、数千倍良い教育をうけ、数億倍優雅なくらしをしてきたかもしれない！でも、それとこれとは話が別だ！ルイーズはわたさないぞ！」

ゴン「こうなったら、こうなったら戦争だー！」

ルイーズ「やめて！二人とも、私のために戦うなんてそんな残酷なことやめて！」

ヤシ「ルイーズ、とめてくれるな！君を愛する男はこの世に一人でナンボだ！」

ルイーズ「私が私がいけないのね、私がいるから……。」

ゴン「さあ、剣を抜け！さあー！」

ルイーズ「さようなら二人とも、やあ！」

ヤシ「ルイーズ！」

ゴン「ルイーズ様！なんてことを…。」

ルイーズ「私は、私は、ハアハア、二人が同じくらい、ハアハア、好き…ガクッ」

ヤシ「ルイーズ！」

ゴン「そんなー！」

六場 ー①

ゴン「今日のオレの演技どうだった？」

ヤシ「ちょっとカタかったかな。もう少しのびのびセリフいってもいいっしょ。」

ルイーズ「お先〜。」

ゴン「おつかれさまです！」

ヤシ「おつかれさまっス〜。」

ゴン「そっか〜。ちょっとカタかったか〜。松田優作までの道のりは遠いな〜。」

ヤシ「あ〜あ、コージこなかったな〜。」

ゴン「仕事でいそがしかったんじゃない？」

ヤシ「も〜ホント何してんだよアイツは〜？」

コージ「せ、先輩〜（泣）。」

ヤシ「コージ？」

ゴン「どうしたんだよコージそのカラダ!?」

コージ「オレ、会社で地獄を見たよ！地獄。」

ゴン「え？ジゴク？」

コージ「死ぬかと思った〜（泣）。」

六場ー②

ヤシ「ああやっぱり！やっぱりそおっしょ！」

コージ「オレ、もうお金いらんす～。役者にもどりたいっす～。」

ゴン「AKBのライブはいいのか？」

コージ「ネット動画で十分っす～。だから～だから～また～。」

ヤシ「よし、コージ来い！オレが抱きしめてやる、来い！」

コージ「先非事～！」

ゴン「よくわかんないけど、ヤッターー！」

完